

(数学科)

人材の養成に関する目的:

- ・ 数学科研究所と連携して、国際的に活躍する高度な人材を育成する。
- ・ 数学の最先端に連なる基礎学力を身につけ、伸びやかな発想で社会に貢献できる人材を育成する。
- ・ 中高教員などの教育職、各省庁及び地方公共団体や民間企業などで活躍できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

- ・ 数学は、すべての科学の基礎であり共通の言葉である。また、なにものにも縛られず、純粋に人間の知的欲求、美意識から生まれた不変の文化である。このように基礎的かつ普遍的である数学は、急激な変貌を遂げている我々の社会において、今後広がりや深みを増して益々重要になっていくであろう。我々は、これに応えるべく、数学のさらなる広がりや深化を目指して研究を行う。
- ・ 自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にして、物事の本質を見極め、自由で独創的な発想ができ、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる人材を育成する。

(物理学科)

人材の養成に関する目的:

- ・ 現代物理学の研究領域は、素粒子・原子核の極微の世界から、天体や宇宙をあつかう極大の世界、低温やプラズマといった極限環境、あるいは日常的なスケールの物質をあつかうものまで、森羅万象にわたっている。物理学科は、これらの多岐にわたる研究領域に対応できるように編成されており、物理学の諸領域のバランスのとれた最前線の研究と各研究分野における教育を行ってきた。これらの研究成果を社会に還元できる人材

を育成するために、実験や観測による現象を把握し、理論による体系化された理解ができる能力を身につけ、自然のふるまいについての物理的描像をもつように学生を教育する。学生は、物理学で養った自然科学の基本を活用し、科学・技術を必要とする企業や公的機関、教育職等で活躍すること、あるいは大学院へ進学してより高度な研究へと進むことを目指す。

教育研究上の目的:

・物理学科の教育の基本理念は、自然科学の最も重要な基礎である物理学の知識と考え方を身につけ、広く社会に貢献しうる人材を育成することである。研究においては、素粒子・原子核・宇宙から物性に至る現代物理学の諸分野において、最前線の知見を育み真理の探究を行うことを理念とする。大学（院）教育と研究は物理学科の活動の両輪と考え、常に相互に高め合うような研鑽を目指す。教育と研究を通じて、科学のフロンティアに携わる者としての社会的貢献を実践する。

(化学科)

人材の養成に関する目的:

21 世紀は分子と分子機能の時代であるとの認識に立脚し、物質の構造・反応・機能を原子・分子のレベルから理解できるよう教授する。先端的な物質合成法、科学計測法、化学情報利用法などの教育も行い、これからの化学を担う国際的な人材を育成する。

教育研究上の目的:

・物質の構造・反応・機能を原子・分子のレベルから理解し、広い範囲の自然科学を化学的に考えることができる人材を育成する。物質観を中心に据えた科学的センスを養い、物質科学や生命科学などの先端学際領域を切り開くための豊かな化学を追及する。学修した成果を社会の様々な分野で活かすことの出来る人材を輩出する。

(生物学科)

人材の養成に関する目的:

生物および生命現象に関する広範な知識を会得するとともに、新規に発現した問題に対しても柔軟に対応して解決する能力を身に着け、社会に貢献できる人材を育成する。特に、中高教員などの教育職、各省庁及び地方公共団体や民間企業などで活躍できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

分子・細胞レベルおよび個体から地球レベルに至る幅広い分野にわたって、また、脊椎動物・無脊椎動物・高等植物・菌類・細菌と多様な生物群を対象とする研究を通して、生命現象に共通する性質を明らかにするとともに、生物多様性の本質を探求する。同時に、応用生物科学の基礎としての生物学の進展に心がけ、環境問題や食料、医療などにかかわる 21 世紀の諸課題を解決する。

(地球学科)

人材の養成に関する目的:

地球の過去・現在の学際的な認識能力や未来の予測技術を持ち、地球自然と人間社会の接点に立って、環境保護や自然災害防止などに貢献できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

地球の過去・現在の学際的な認識を通じて未来の地球を予測する新しい学問体系を確立し、その認識能力・予測技術をもった人材を育成する。